

3. 回答結果と分析

(1) まとめと分析

(2) 以下に示される平成18年度前学期の集計結果を、設問ごと4段階評価(「設問4_授業のレベル」のみ5段階評価)において、肯定的評価を下した学生の割合を示し、科目別の傾向を分析する。

尚、本年度(平成18年度)にカリキュラムの変更があったため、正確な経年変化を見ることはできないが、参考に平成17年度の集計結果を掲載する。

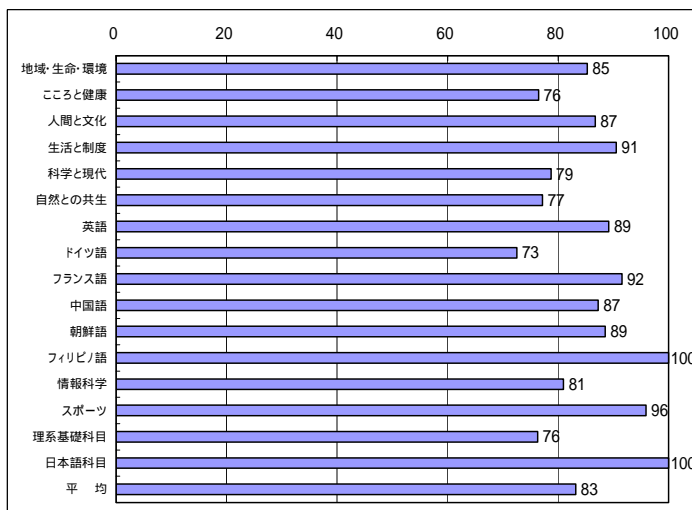
1) 「授業の内容に関する質問」に対する学生の自己評価

まず「目的・目標の理解」であるが、平均すると83%の学生が肯定的評価を行っており、概ね学生は授業の目的・目標を理解できていると判断できる。しかし「ドイツ語」「こころと健康」「理系基礎科目」「自然との共生」「科学と現代」は低い数字となっている。目的・目標を理解しないままの学習は学習効果が低くなりがちなので、シラバスや授業中にそれらを明示する取り組みが求められる。

表1 設問 1-1目的・目標の理解
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	76	82
社会を知る	81	85
自然を知る	78	77
健やかに生きる	86	90
こころ豊かに生きる	89	91
英語	93	94
ドイツ語	79	80
フランス語	86	98
中国語	91	92
朝鮮語	94	93
フィリピン語	100	100
情報科学	85	86
スポーツ	96	97
専攻別基礎科目	76	78
日本語科目	100	100
平均	84	86

	平成18年度
	前
地域・生命・環境	85
こころと健康	76
人間と文化	87
生活と制度	91
科学と現代	79
自然との共生	77
英語	89
ドイツ語	73
フランス語	92
中国語	87
朝鮮語	89
フィリピン語	100
情報科学	81
スポーツ	96
理系基礎科目	76
日本語科目	100
平均	83

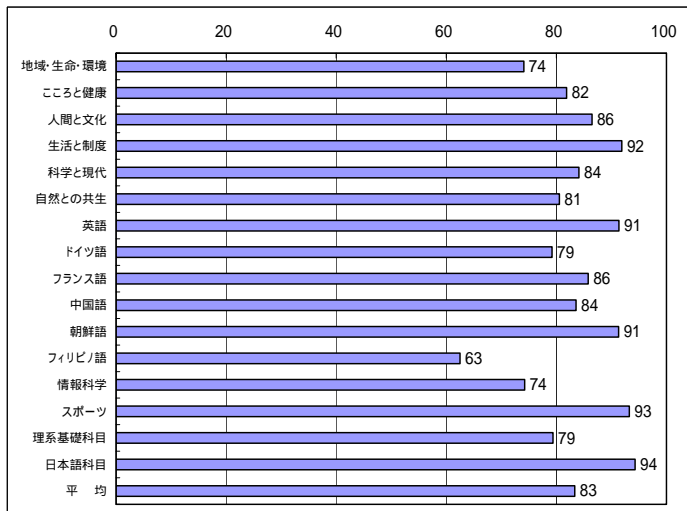


次に「進捗・時間配分」の適切さであるが、平均で83%の学生から肯定的評価を得た。その数字が低かったのが、「地域・生命・環境」「理系基礎科目」「情報科学」「フィリピン語」である。「理系基礎科目」「情報科学」は学生の習熟度に格差が出やすい科目でもある。進捗や時間配分を再検討する必要がある。

表2 設問 1-2進捗・時間配分
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

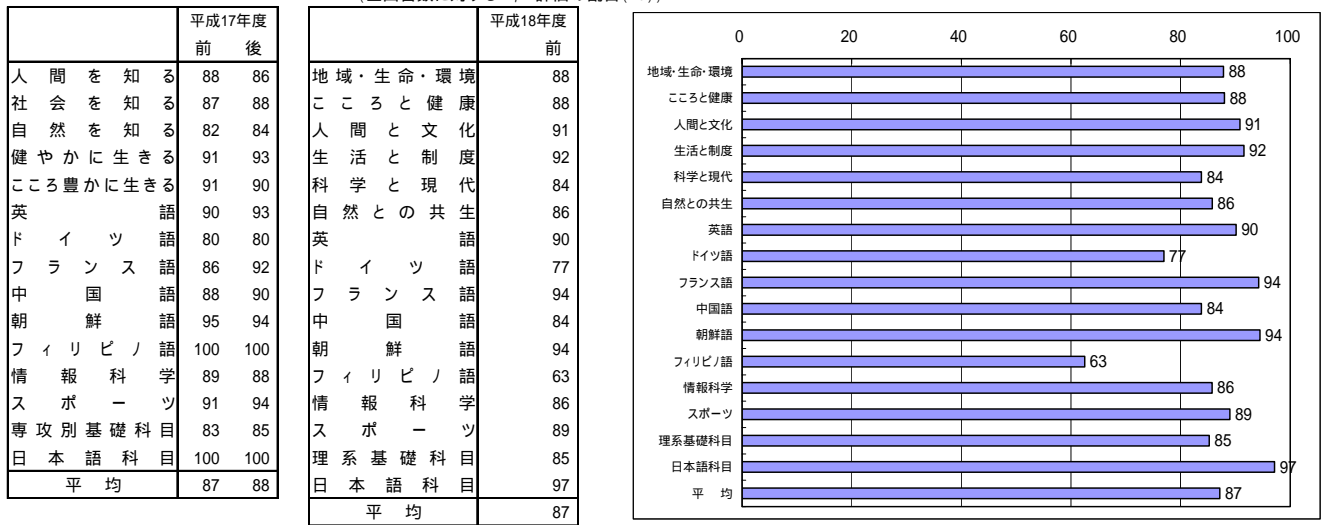
	平成17年度	
	前	後
人間を知る	88	86
社会を知る	85	86
自然を知る	87	84
健やかに生きる	88	94
こころ豊かに生きる	93	86
英語	93	93
ドイツ語	82	81
フランス語	79	89
中国語	86	89
朝鮮語	91	96
フィリピン語	100	100
情報科学	79	80
スポーツ	91	95
専攻別基礎科目	78	79
日本語科目	97	100
平均	86	87

	平成18年度
	前
地域・生命・環境	74
こころと健康	82
人間と文化	86
生活と制度	92
科学と現代	84
自然との共生	81
英語	91
ドイツ語	79
フランス語	86
中国語	84
朝鮮語	91
フィリピン語	63
情報科学	74
スポーツ	93
理系基礎科目	79
日本語科目	94
平均	83



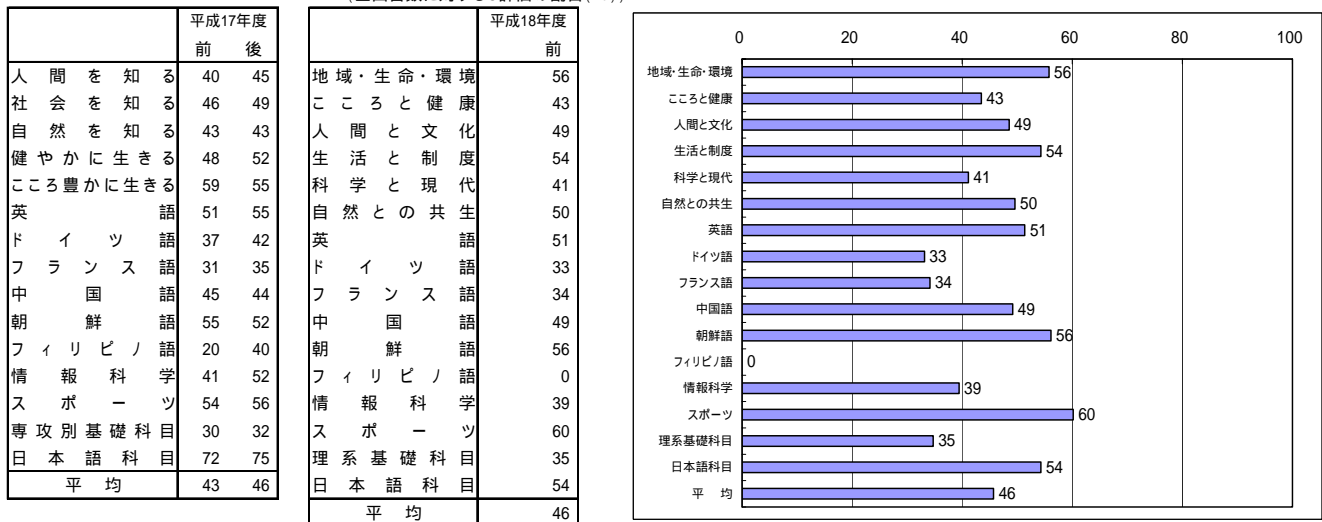
「シラバスどおりの授業」については、全科目平均で87%、科目別でも一部を除いて80%を超えていて、肯定的な評価を得た。「フィリピン語」「ドイツ語」では、数値が低くなっている。授業計画を再検討する必要がある。

表3 設問 1-3 シラバスどおりの授業
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「レベル」については、全科目平均で46%が「ちょうどよい」を選択した。半数以上の学生がレベルの適切さを感じていないということになる。数値の低い「ドイツ語」「フランス語」「フィリピン語」「理系基礎科目」「情報科学」「ここと健康」については、より深い調査を行い、簡単すぎるのか難しすぎるのかを特定した上で、レベルの再設定を検討すべきである。「情報科学」においては本年度より習熟度別クラス編成を行なったが、その成果が表れていない。この設問の評価が低くなる要因は、学生の学習履歴の多様化、大学での学習技術の未習得、学習ニーズ分析不足など複合的である。授業の検討のみならず、プレイメントテストの実施による正確な学力把握や、未習・補習、学習相談窓口等の個別対応型学習支援サービスの提供もあわせて考える必要がある。

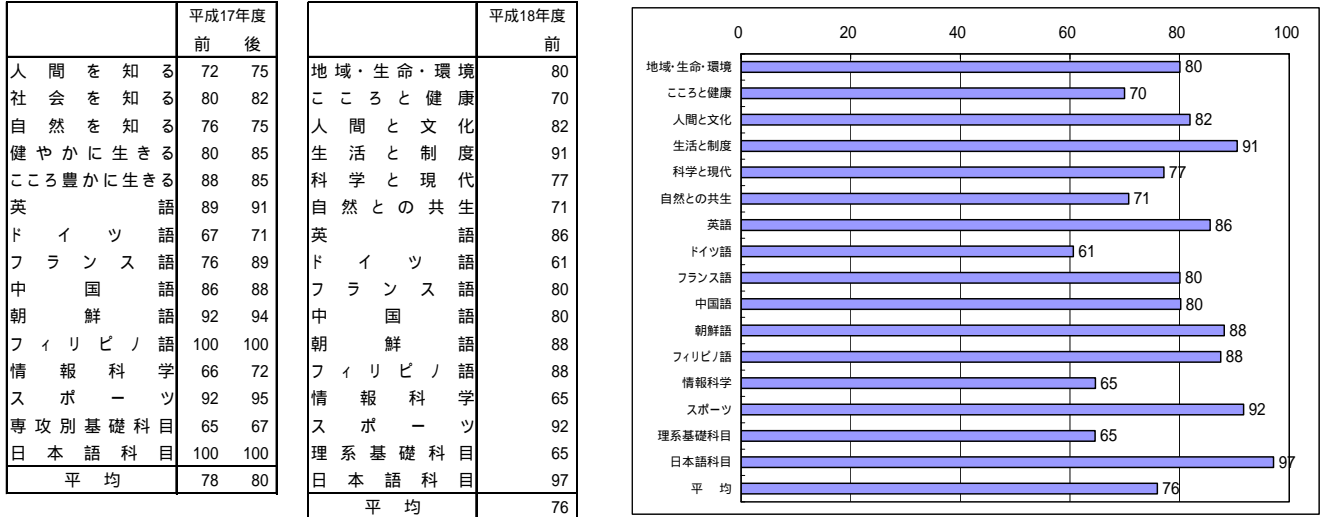
表4 設問 1-4 レベル
(全回答数に対するC評価の割合(%))



2) 「授業担当者の授業方法に関する質問」に対する学生の評価

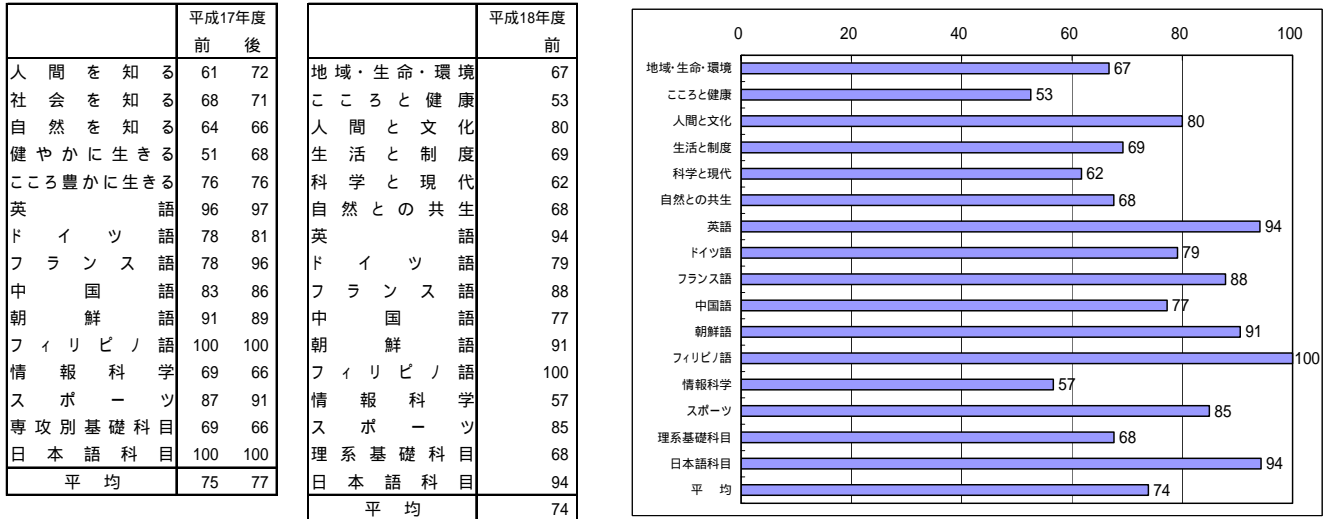
まず「わかりやすさ」についてであるが、全科目平均では76%の肯定的評価を得るものの、科目毎のばらつきが大きい。「ドイツ語」「情報科学」「理系基礎科目」において数値が低くなっている。わかりやすさに影響を及ぼす要因は大きく2つあり、授業内容そのものの難易度が高い場合と、教員の授業方法に起因する場合は考えられる。この3つの科目は「レベル」についても適切でないという評価を受けており、あわせて見直しをする必要がある。

表5 設問 2-1 わかりやすさ
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「コミュニケーション」については、全科目平均の肯定的評価が74%であり、「こころと健康」「情報科学」「科学と現代」の値が低くなっている。

表6 設問 2-2 コミュニケーション
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

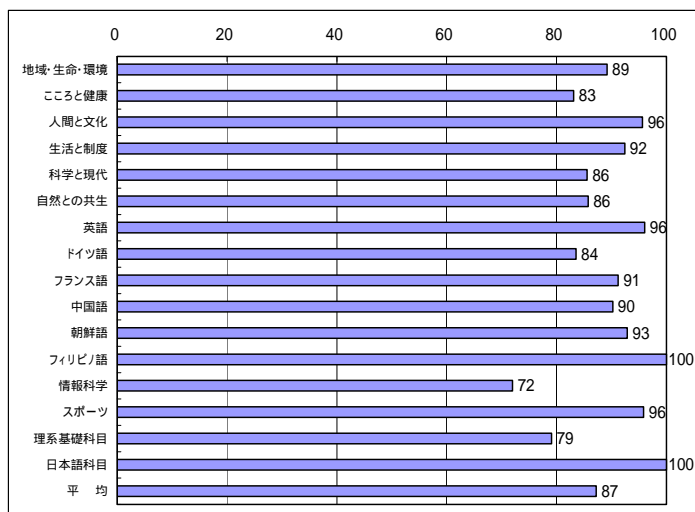


「教員の意欲・熱意」については、全科目平均の肯定的評価が87%であり、高い数値を得ている。教員の「熱意」は学生に伝わってこそ教育効果につながるものであり、この評価がさらに伸びるよう期待したい。「情報科学」、
「理系基礎科目」はやや低調である。

表7 設問 2-3 教員の意欲・熱意
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	87	94
社会を知る	89	90
自然を知る	86	83
健やかに生きる	87	92
こころ豊かに生きる	94	91
英語	97	97
ドイツ語	85	80
フランス語	88	96
中国語	94	94
朝鮮語	96	96
フィリピン語	100	100
情報科学	74	78
スポーツ	96	97
専攻別基礎科目	80	80
日本語科目	100	100
平均	88	89

	平成18年度	
	前	
地域・生命・環境	89	
こころと健康	83	
人間と文化	96	
生活と制度	92	
科学と現代	86	
自然との共生	86	
英語	96	
ドイツ語	84	
フランス語	91	
中国語	90	
朝鮮語	93	
フィリピン語	100	
情報科学	72	
スポーツ	96	
理系基礎科目	79	
日本語科目	100	
平均	87	

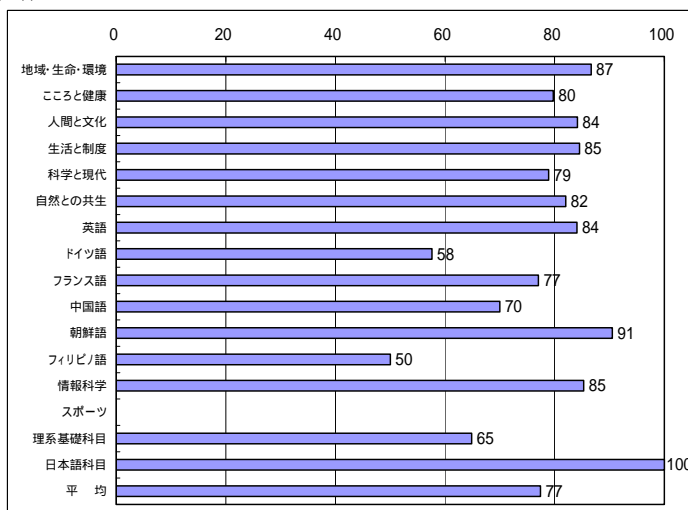


「視聴覚教材」は、学生の理解を促すための教育手法として、パソコン、プロジェクター、OHC（現物投影機）、DVD・ビデオ等を効果的に利用していることを確認する指標であり、全科目平均では77%の肯定的評価を得た。科目特性により視聴覚教材使用の意味は異なるが、学生の理解を促す有効な教材であることには違いないので、活用の可能性についてはどの教科においても積極的に検討すべきであろう。

表8 設問 2-4 視聴覚教材
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	79	76
社会を知る	68	72
自然を知る	84	76
健やかに生きる	64	76
こころ豊かに生きる	89	92
英語	86	88
ドイツ語	61	67
フランス語	71	86
中国語	68	69
朝鮮語	94	92
フィリピン語	100	100
情報科学	84	81
スポーツ		
専攻別基礎科目	64	67
日本語科目	97	100
平均	76	77

	平成18年度	
	前	
地域・生命・環境	87	
こころと健康	80	
人間と文化	84	
生活と制度	85	
科学と現代	79	
自然との共生	82	
英語	84	
ドイツ語	58	
フランス語	77	
中国語	70	
朝鮮語	91	
フィリピン語	50	
情報科学	85	
スポーツ		
理系基礎科目	65	
日本語科目	100	
平均	77	

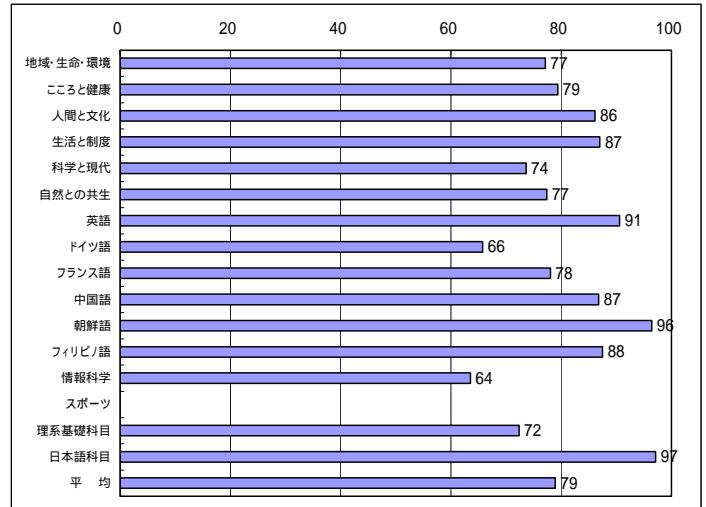


「教科書・プリント」については、全科目平均の肯定的評価が79%であった。概ね効果的に使用されていると判断できる。「ドイツ語」「情報科学」については若干低めな数値となっているので、教材について検討する必要がある。

表9 設問 2-5 教科書・プリント
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	83	78
社会を知る	81	82
自然を知る	74	72
健やかに生きる	59	78
こころ豊かに生きる	82	78
英語	91	93
ドイツ語	68	75
フランス語	77	84
中国語	89	88
朝鮮語	96	95
フィリピン語	100	100
情報科学	70	72
スポーツ		
専攻別基礎科目	72	72
日本語科目	100	100
平均	79	80

	平成18年度	
	前	
地域・生命・環境	77	
こころと健康	79	
人間と文化	86	
生活と制度	87	
科学と現代	74	
自然との共生	77	
英語	91	
ドイツ語	66	
フランス語	78	
中国語	87	
朝鮮語	96	
フィリピン語	88	
情報科学	64	
スポーツ		
理系基礎科目	72	
日本語科目	97	
平均	79	



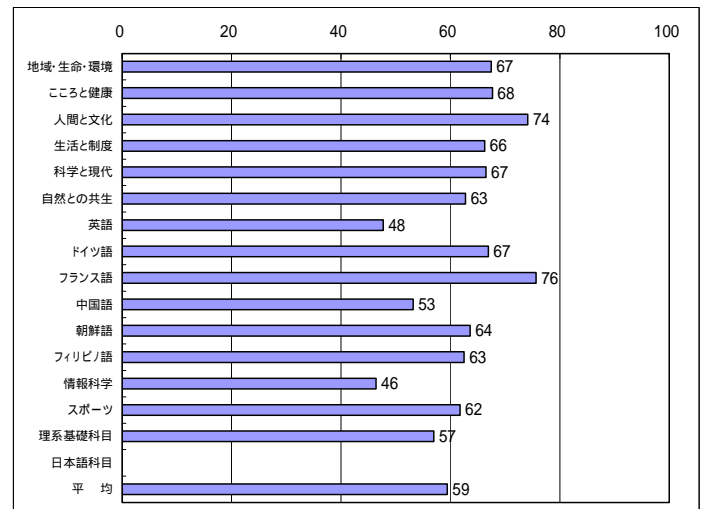
3) 「あなた自身に関する質問」に関する学生の自己評価

「シラバス」は、全科目平均で59%の肯定的評価であった。ということは、4割強の学生はシラバスをほとんど読まずに受講していることとなる。シラバスを読むことで、授業開始前に内容を把握することは学習効果を高めることにつながるとガイダンスで周知する必要がある。

表10 設問 3-1 シラバス
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

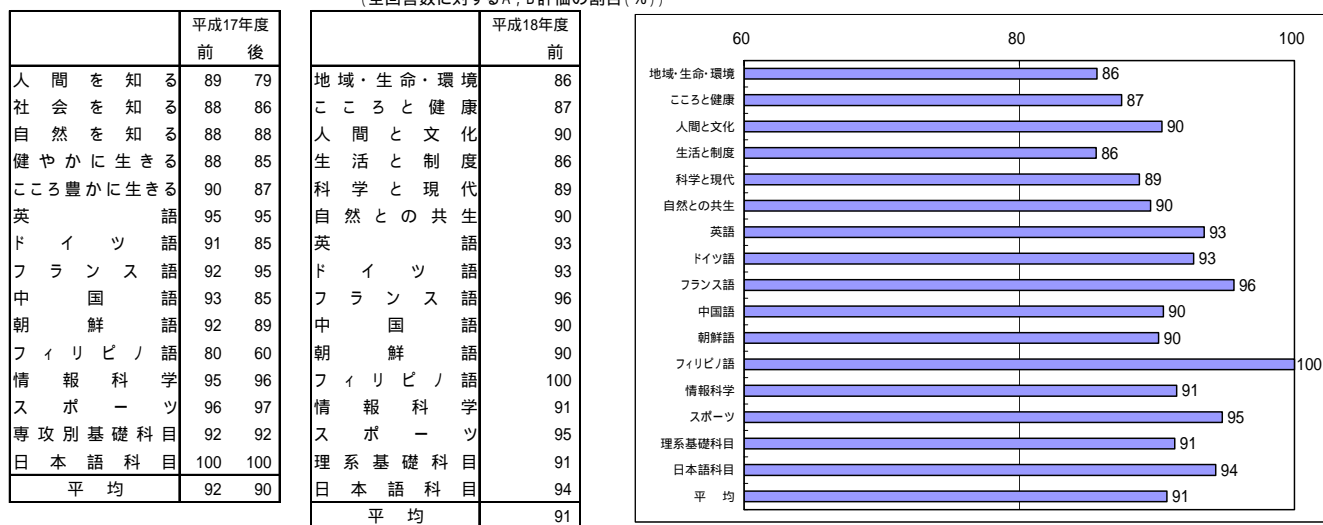
	平成17年度	
	前	後
人間を知る	70	76
社会を知る	71	64
自然を知る	65	66
健やかに生きる	70	74
こころ豊かに生きる	78	77
英語	56	53
ドイツ語	58	56
フランス語	68	64
中国語	64	58
朝鮮語	70	62
フィリピン語	80	80
情報科学	48	49
スポーツ	70	59
専攻別基礎科目	57	59
日本語科目		
平均	63	61

	平成18年度	
	前	
地域・生命・環境	67	
こころと健康	68	
人間と文化	74	
生活と制度	66	
科学と現代	67	
自然との共生	63	
英語	48	
ドイツ語	67	
フランス語	76	
中国語	53	
朝鮮語	64	
フィリピン語	63	
情報科学	46	
スポーツ	62	
理系基礎科目	57	
日本語科目		
平均	59	



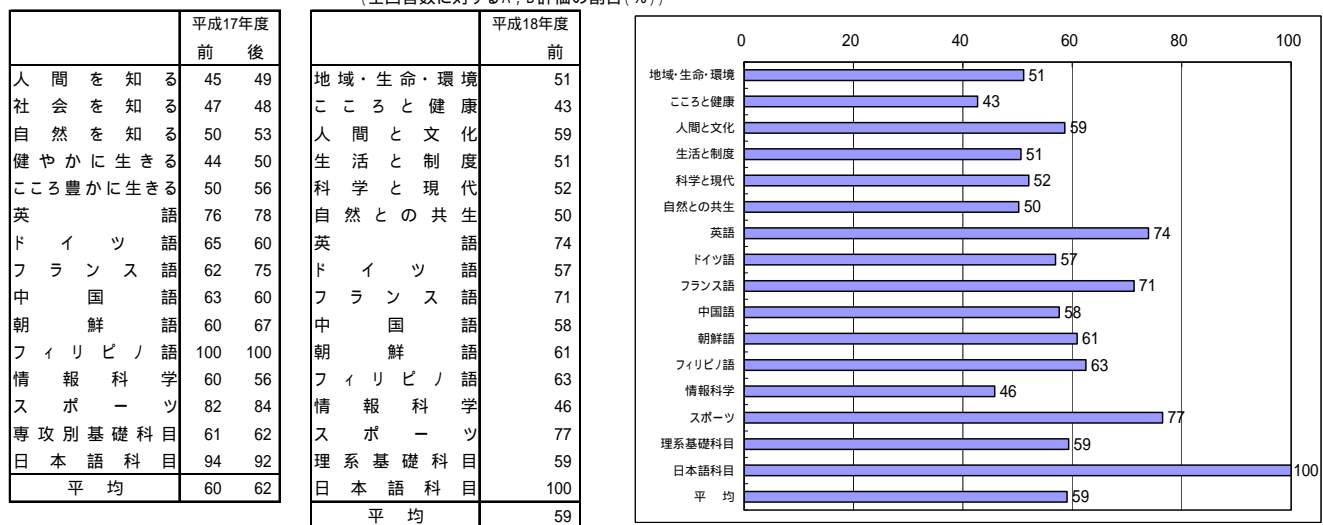
「出席状況」は全科目平均で91%であり、一部を除いてほぼ90%の肯定的評価を得ている。単位の認定の前提条件として3分の2以上の出席が求められていることから、これらに対する取り組みの成果と判断できよう。

表11 設問 3-2 出席状況
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



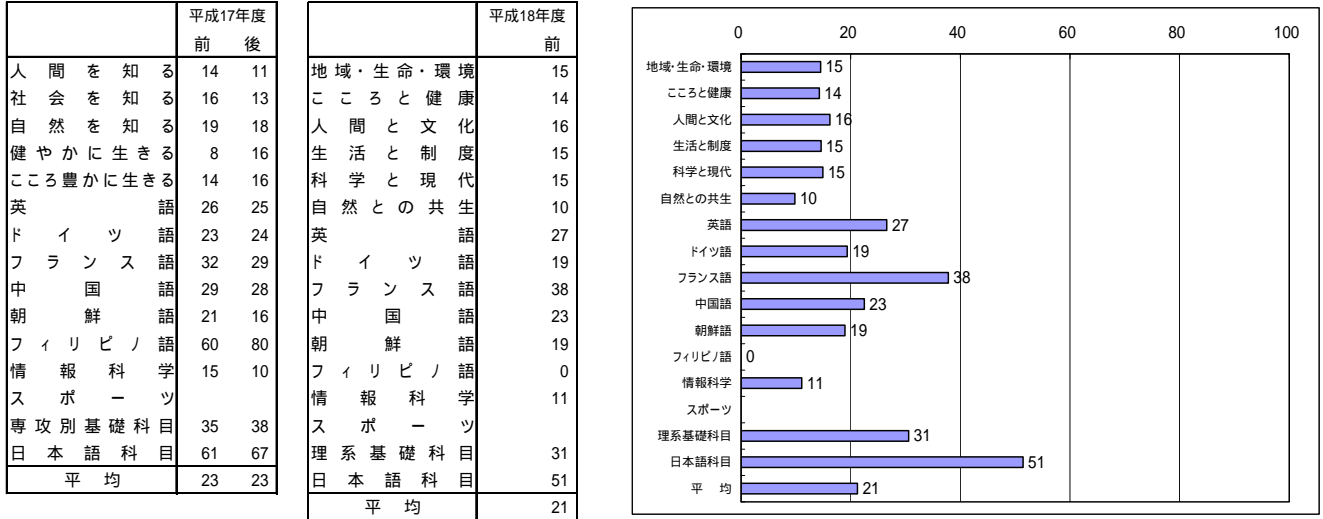
「学習態度」については、全科目の肯定的評価は59%であった。「ここと健康」「自然との共生」「地域・生命・環境」「生活と制度」「情報科学」では40%~50%の下位台になっており、それらの科目について積極的に授業に臨んでいる学生が多いとは言えない。その原因を更に深い調査で明らかにする必要がある。

表12 設問 3-3 学習態度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「授業時間外学習」についてだが、授業科目毎に1時間以上行う学生の比率は21%であった。現行の単位制度では、1単位は 教員が教室等で授業を行う時間及び 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間、の合計で標準45時間の学修を要する教育内容を持って構成されている。そのため、自宅学習時間の取り組みが低いことは問題である。そんな中で、50%以上の学生が1時間以上の授業時間外学習をしている「日本語」では、どのような課題を出しているのかさらに深い調査が必要である。

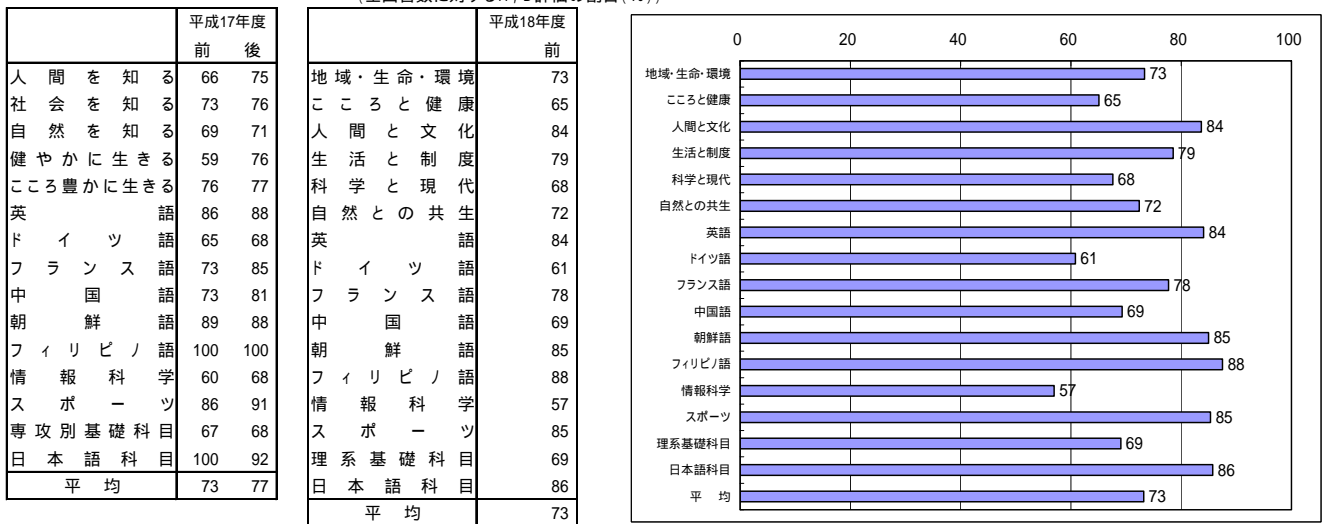
表13 設問 3-4 授業時間外学習
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



4) 「授業全体に対する質問」に関する学生の評価

「授業改善度」についてだが、学生の意見を取り入れるなどして授業を改善する努力に対し、科目全体で73%の学生から肯定的評価を得た。ミニッツペーパーや授業中のコミュニケーションによって学生からコメントを引き出し、良い点・改善点を正確に把握し、それに対して教員が何らかのコメントを返す機会を作るとよい。教育企画室で実施している、授業コンサルティングではその支援をしているので活用も有効な手段であることを周知する必要がある。

表14 設問 4-1 改善度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))



「目的・目標達成度」は授業に対する目的・目標の達成度を質問しており、全科目平均では81%、科目間のばらつきがあるものの全ての科目で70%を超える肯定的評価となった。特に「スポーツ」「日本語科目」は高い評価となっている。

ただし、授業全体としての「満足度」は「ドイツ語」「理系基礎科目」「自然との共生」「こころと健康」「情報科学」でやや低い肯定的評価であり、更なる深い調査によりその要因を特定する必要がある。

共通教育のありかたを論じる場合に、いたずらに学生の反応に振り回されては行けないが、授業は受け手に受容されない限り、効果を期待することはできない。目的・目標達成度や満足度があまり高くない科目については、カリキュラムの面からも問題がないか、検証する必要がある。

表15 設問 4-2 目的・目標達成度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	78	80
社会を知る	81	81
自然を知る	78	77
健やかに生きる	82	90
こころ豊かに生きる	88	89
英語	90	92
ドイツ語	76	79
フランス語	78	92
中国語	87	87
朝鮮語	93	88
フィリピン語	100	100
情報科学	81	81
スポーツ	94	97
専攻別基礎科目	75	76
日本語科目	100	100
平均	82	84

	平成18年度	
	前	
地域・生命・環境	83	
こころと健康	75	
人間と文化	86	
生活と制度	89	
科学と現代	77	
自然との共生	75	
英語	86	
ドイツ語	71	
フランス語	83	
中国語	81	
朝鮮語	87	
フィリピン語	88	
情報科学	77	
スポーツ	95	
理系基礎科目	75	
日本語科目	100	
平均	81	

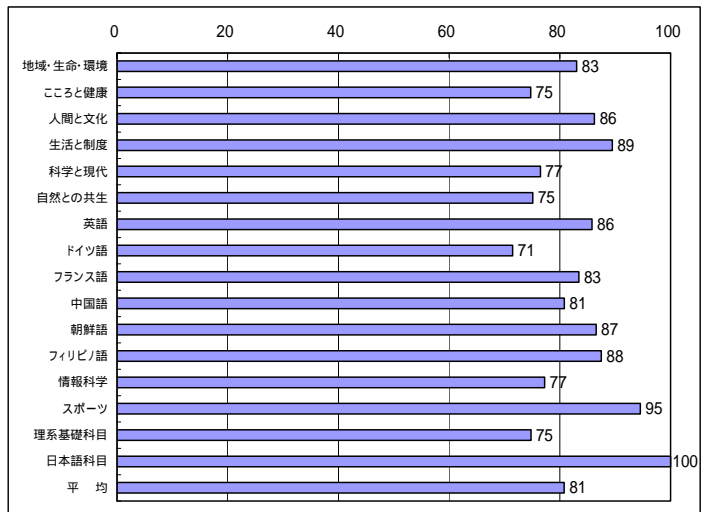


表16 設問 4-3 満足度
(全回答数に対するA, B評価の割合(%))

	平成17年度	
	前	後
人間を知る	74	78
社会を知る	78	77
自然を知る	75	74
健やかに生きる	84	86
こころ豊かに生きる	88	88
英語	90	91
ドイツ語	74	74
フランス語	78	90
中国語	86	87
朝鮮語	92	90
フィリピン語	100	100
情報科学	75	75
スポーツ	93	96
専攻別基礎科目	70	71
日本語科目	100	100
平均	80	81

	平成18年度	
	前	
地域・生命・環境	81	
こころと健康	73	
人間と文化	83	
生活と制度	88	
科学と現代	76	
自然との共生	72	
英語	86	
ドイツ語	68	
フランス語	84	
中国語	81	
朝鮮語	89	
フィリピン語	88	
情報科学	73	
スポーツ	94	
理系基礎科目	70	
日本語科目	89	
平均	79	

